

■大江匡衡 漢文学者。出世は遅れたが、天皇侍読となり、学者輩出する大江家中興の祖となった。妻は赤染衛門。

おおえのまさひら

・ ・ ・ ・ ・ 952= 大江音人を祖とする学者の家柄大江重光の子に生まれる。

大江家と並ぶ菅原家の道真が失脚後、祖父大江維時の代には儒家の中心的存在となっていて、父も対策に及第している文人官僚。祖父維時から薫陶を受けて育ち、

・ ・ ・ ・ ・ 958= 6歳：自らが半生を回顧して詠んだ述懐詩によれば、
読書を始め、

宋建国 ・ ・ ・ 960= 8歳：詠作を行う。

・ ・ ・ ・ ・ 961= 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 963=11歳：祖父維時が死去。

・ ・ ・ ・ ・ 964=12歳：元服し、匡衡と称する。

・ ・ ・ ・ ・ 966=14歳：大学寮に入り、

延喜式施行 ・ 967=15歳：寮試に合格して擬文章生となる。

安和の変 ・ ・ 969=17歳：

・ ・ ・ ・ ・ 970=18歳：

・ ・ ・ ・ ・ 973=21歳：父重光が死去。省試に合格して文章生となる。

・ ・ ・ ・ ・ 977=25歳：この年、愛人中将尼に長男挙周が誕生したと思われる。

・ ・ ・ ・ ・ 979=27歳：対策に及第。

・ ・ ・ ・ ・ 980=28歳：鷹司家に出仕していた赤染衛門と出会って親しくなり、

往生要集 ・ ・ 985=32歳：襲撃されて指を切断され、左兵衛尉藤原斉明とその弟藤原保輔が犯人という。

・ ・ ・ ・ ・ 987=35歳：この頃には、赤染衛門と同居、実質的に妻にしたと考えられる。

尾張百姓訴え 988=36歳：

藤原定子入内 990=38歳：具平親王、大江匡衡ら呼び、詩宴を催す。

花山法皇事件 996=44歳：前半生読書30年に及んで官位は遅々として進まず不遇をなげいていたが、

大江匡衡口紀齊名に、宋僧源清への返牒を作らせる。

・ ・ ・ ・ ・ 997=45歳：文章生試判が行われ、大江匡衡と紀齊名が論争する。

・ ・ ・ ・ ・ 998=46歳：*東宮学士に抜擢され、次いで式部大輔、さらに一条天皇の侍読となって、遺憾なく江家の面目を現し、

二后並立 ・ ・ 1000=48歳：「貞観政要」の返却に事寄せ、藤原行成に不遇を怨む。

当代の鴻儒を謳われるも身は貧しく風采があがらなかったが、

和泉式部日記1004=52歳：藤原公任から上表文の依頼を受けた時、妻赤染衛門の助言を得て作成、

・ ・ ・ ・ ・ 1006=54歳：
妻赤染衛門が当代一流の歌人として押しも押されぬようになるなか、

・ ・ ・ ・ ・ 1009=57歳：大江匡衡ら、殿上人20余人、大井川に遊び、和歌会を催す。

和漢朗詠集 ・ 1012=60歳：没した。

「江吏部集」「匡衡集」。没後もつづけられた妻赤染衛門の「栄華物語」述作にも史伝の学者として影響を与えたと思われる。